

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日(金)

1. 初期支援(はじめのかかわり)

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	9人	1人	人	10人

前回の改善計画
新規の利用者を担当する職員は、おおむね3ヶ月間の関わりを通して、本人の情報を収集する(本人を取り巻く環境、これまでの暮らし、現在の暮らし、趣味嗜好等)。

前回の改善計画に対する取組み結果
新規利用者への関りは、担当職員にかかわらずチームで丁寧な声かけや対応ができています。但し、本人の情報収集は、事業所での様子が大半を占め、自宅での様子や地域とのかかわりは限定的である。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	4	8			12
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	10			12
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	6	6			12
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	3	9			12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・ 情報提供票表を利用開始前に確認し、開始後はケース記録や部署会議等で情報を共有している。
- ・ 送迎や訪問に携わらない職員も、介護職員より送迎時、訪問時の様子を聞き共有している。
- ・ 利用開始当初は、関わる時間を積極的に作り、本人を知るようにした。関わり方、支援の仕方に工夫が必要な時は職員で情報を共有し、本人にあわせた関わり方や支援が出来た。
- ・ 自宅へ訪問する際、何故訪問に来ているのか理解してもらう為、優しい口調で語りかけるようにしている。本人が何を言いたいのか不明瞭でも、しっかり相槌をうち傾聴するよう心掛けている。
- ・ 本人の課題、家族の心配を明確にして支援内容を検討している。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・ (意識をしていても) 本人と関わる時間が十分に取れず、新たな情報を得るのが難しい時がある。
- ・ ケアプランに沿った支援をしていくが、ケアプランを把握できていない時もあり、ニーズに沿った支援が出来ていない時がある。
- ・ 本人の思いより家族の思いが優先されているのではと感じることがある。本人に話をし、納得されてから利用されるのが望ましいと思う。
- ・ 本人の自宅での様子を知ることが難しい(家族と自宅での様子について共有できない場合がある)。
- ・ 申し送りの情報を確認しておらず、必要な対応ができていなかった、勘違いが生じたこともあった。書いてあるからと過信せず、重要事項は直接声をかける等の配慮も必要ではないか。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

※R5年度と同様の計画とする
新規の利用者を担当する職員は、おおむね3ヶ月間の関わりを通して、本人の情報を収集する(本人を取り巻く環境、これまでの暮らし、現在の暮らし、趣味嗜好等)。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日(金)

2. 「～したい」の実現(自己実現の尊重)

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	7人	2人	人	11人

前回の改善計画
利用者のストレングスに着目したかわりを提案する。「できること。できるかも知れないこと」を増やすことから始め、「～したい」という意欲を引き出す。

前回の改善計画に対する取組み結果
創作部、レク・リハ(レクリエーション・リハビリ)部、畑・園芸部(畑、花壇づくり)、食楽部(食事・口腔ケア)と4つの委員会を作り、様々な活動を通して利用者の意欲、楽しみに繋がる活動を行った。職員自身も好きや得意を活かし、日々のレクリエーションの幅が広がり、共に行う時間が増えた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?	1	7	4		12
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	6	5		12
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	6	5		12
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	7	3		11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・気になっていること、心配なことは、その都度話し合っている。
- ・かかわりの中で、本人の望みを把握し、実現できるように取り組んでいる。
- ・今年度も身体拘束廃止の取り組みとして「出来る事」に着目した関わりの実施と創作部・園芸部の取り組みの中で、本人の出来る事、やってみようという思いを基に利用者と協力して活動をする取り組みを行った。本人の新たな出来る事、やってみようという意欲を引き出せたと思う。
- ・今年度も黒豆、小豆等の皮むきは、大半の利用者が参加している。ソファで傾眠されることが多い利用者も「皮むきがしたい」と意欲がみられた。作物を育てる、収穫する、食べることは、多くの利用者の楽しみに繋がっている。
- ・「何もしたくない」と話される利用者にも「今日はダメでも明日」と諦めず、何かを見つける努力をしている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・本人の出来る事が業務都合で関わりが薄くなり、出来ない事になってしまうことがある。
- ・本人の利用目的は把握できているが、事業所を利用するなかで「～したい」(ゴール)が明確ではない。
- ・「やってみよう」という気持ちになる利用者もいれば、そうでない利用者もおり、意欲的でない利用者への関りに困難さを感じている(寝ているからできないだろう…等の思い込みもある)。
- ・高齢者の生活が意欲や目的を必ずしも持っているとは言えないのではないかと。現役世代からの目線ではなく、高齢者の暮らしに合わせた関わりが大切であり、考える必要性を感じている。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
“やりたい”“やってみよう”と思える、本人の気持ちを引き出す働きかけや声のかけ方を工夫する(特に、意欲低下や傾眠傾向にある方への働きかけを積極的に行い、チームで実践内容を共有する)。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日(金)

3. 日常生活の支援

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	11人	人	人	11人

前回の改善計画

「科学的介護加算」の項目(ADL、認知機能、口腔・栄養)について、4ヵ月に1度本人へ状態を確認する。現在の心身機能に応じた食事や入浴、排せつ、移動等の基礎的な介護ができているか、ケアの方法が適切か、予見されるリスクへの対応がなされているか、家族と情報が共有できているか等々を評価する。

前回の改善計画に対する取組み結果

担当利用者の状態(ADL、認知機能、口腔・栄養)について、4ヵ月に1度本人や家族へ聞き取りすることで、細かな変化を知ることができた。また、本人や家族と話す時間が増えた。ケアの方法も日々の変化を掴み柔軟に見直しを進めているが、ケアプランへ反映するまでのPDCAサイクルは検討の余地がある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		3	9		12
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	3	9			12
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	11			12
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	7	5			12
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	10			12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・事業所での支援は、自宅で過ごされる時と同じことが出来るように考え、支援している。本人に必要なと思われるケアを家族と話し合いながら試し、共有できている。
- ・本人のケアや状態の変化は、ケース記録に入力し、印刷して申し送りファイルで共有している。出勤時、送迎に出発する前に情報を把握するよう心掛けている。
- ・本人の状態と変化、今後の対応等含め、上長とチームで相談や情報共有し、家族へ伝え一緒に対応を考えることができた(職員同士の何気ない会話の中でも“気づき”を共有し、ケアに反映できている)。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・「以前の暮らし方」等、勤務状況によって関わりが少ない利用者の把握が疎かになっていると感じる。
- ・本人がどのように暮らしてこられたのか(暮らしているのか)一人一人と話す時間がもてない。
- ・本人が地域とどのような関わりがあるのか、理解が深められていない(把握の仕方が分からない)。
- ・本人に必要なケアを理解していても、業務の進行や状況にあわせて“できること”まで介助してしまうことがある。“できること”への理解も、新人職員と中堅職員で認識の相違が発生することもある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

「科学的介護加算(LIFE)」における現状の評価を継続し、本人の状況を見える化する。現状を把握する過程で、観察・ヒアリングした内容をケアマネジャーへ伝え、ケアの方法を検討、ケアプランへ反映する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日（金）

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	1人	4人	4人	2人	10人

前回の改善計画
 本人の生活スタイルや人間関係（家族・介護者・近隣・友人・主治医等）を理解する。センターシートを活用し、情報を集約する。本人を取り巻く地域の資源を知る。

前回の改善計画に対する取組み結果
 センターシートの活用はケアマネジャーが取り組んでおり、利用担当者と一緒に取り組めていない（職員は収集された情報を確認するのみ）。確認した情報は、本人や家族、地域の方へ働きかける（繋がりを継続する）ことに繋がっている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？	1	5	4	2	12
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	1	7	2	2	12
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？		4	6	2	12
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？		4	5	3	12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・家族との連携は迅速に丁寧に行っている。
- ・一部の利用者に限られるが、センターシートを活用し、生活史、関りの人を整理し理解を深めている。
- ・日々の関りや送迎時に家族から自宅での様子を聞き、関係性や暮らしぶりを知るよう意識した。
- ・積雪時には、近所の方が除雪されていた。職員も訪問や電話等で情報を知ることが出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・センターシートの活用は積極的にできておらず（一部の利用者に限られる）、細かい部分までアセスメントができていない。
- ・利用者がどれくらい地域と関わりがあったのか、またはあるのか、理解しきれていない（特に人間関係はプライバシーに配慮する必要もあり、積極的に聞くことが躊躇われる。信頼関係を築くなかで聞き取る配慮も必要）。
- ・事業所の介入が本人の生活スタイルに強く影響を与える場合があることを考えると、一定の線引きは必要と考える。
- ・本人が独居で家族が遠方居住の場合、現状を把握する機会が少なく、事業所に任せきりになる。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
 認知症のある方や独居の利用者を中心に、センターシートを活用し、本人の生活スタイルや人間関係（家族・介護者・近隣・友人・主治医等）を把握する。ケアマネジャーと連携し、利用担当職員が取り組む機会を作る。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日(金)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	6人	5人	人	11人

前回の改善計画
本人の生活スタイルや人間関係(家族・介護者・近隣・友人・主治医等)を理解する。センターシートを活用し、情報を集約する。本人を取り巻く地域の資源を知る。

前回の改善計画に対する取組み結果
特に認知症のある独居の方は、本人の生活スタイルや人間関係、地域との繋がりを理解する必要がある。但し、理解が必ずしも地域との繋がりを維持することには繋がっていない。家族・介護者・近隣の方との関係を修復、改善する必要性を感じることもあるが、対応には苦慮している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		6	4	2	12
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	3	7	2		12
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	4	8			12
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	9			12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 ・本人や家族の希望、緊急度等により柔軟に通い、宿泊、訪問サービスの提供が来ている。
 ・緊急時(同居家族、介護者の体調不良等)、長期の宿泊が必要な時に、法人の他事業所と連携して必要な支援を行った。
 ・本人の変化は、日々情報共有できており、迅速で柔軟な対応に繋がっている。
 ・苦情解決委員会の取り組みで、利用者を観察する中で気づいたことを「気づきシート」としてまとめ、チームで共有している。自身の知らない利用者の一面を知ることができた。
 ・散髪や買物支援、近所づきあい、配食サービスの利用等、地域資源を活用できている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 ・②について、適切でない方もおられると思う(家族の都合が優先され、本人の思いが反映されていない)。
 ・センターシートが積極的に活用できておらず、情報が十分に集約できていない。
 ・地域資源についての理解が不十分であり、理解できていないままになっている(経験の浅い職員に多い)。
 ・もっと活用できる地域資源があるのではと思う(事業所で多くを抱えている場合もある)。
 ・特養やグループホーム入所待ちで長期間に渡って宿泊利用されている方がいる。月により緊急時の枠が十分に確保できない時がある。本当に必要な人が必要な時に家族支援も含め、柔軟に対応できると良いと思う。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
 新人職員や異動で配属となった職員が増えたこともあり、地域の資源(フォーマル、インフォーマル)について知る。地域の資源マップを活用する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日(金)

6. 連携・協働

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	4人	2人	2人	8人

前回の改善計画
 新人職員、他部署から異動のあった職員を中心に、事業所とかかわりのある外部機関について理解する。地域とのかかわりについて理解する。

前回の改善計画に対する取組み結果
 多くの場合は管理者やケアマネジャーが窓口となっており、職員の直接的なかわりは少ない。周知すべき情報は書面にて共有しており、どのような外部機関があるのか、どのような関わりがあるのかは理解が少しずつ進んでいる。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	1	3	2	4	10
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		2	1	8	11
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?		2	5	5	12
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		1	4	7	12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- 本人の状態に応じて、医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所と連携し、適宜必要な対応ができています。
- ボランティアの受入れが可能となり、一度ではあったが事業所でオカリナ演奏していただいた。警察署員による防犯教室、地域の中学生による福祉体験学習、福祉養成講座受講生の実習受入れを行った。
- 送迎や訪問時など、ご近所など地域の方を見かけたら挨拶をしている。
- その他のサービスや地域の各種機関・団体との会議は、管理者、ケアマネジャーが出席している。
- 運営推進会議で、地域の行事や困りごとを確認している。相談窓口の機能を伝えている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- コロナ禍が明けても、地域の行事やイベント参加等は積極的にできていない(法人内での感染流行、地域からの自粛要請等)。
- 積極的に関心を持ち、地域との繋がりを考えていくことを業務の中に落とし込むと良いのではないかと。コロナが5類になり感染症対策の緩和から、今後は柔軟に対応できることが増えてくると思われる。
- 外部機関との関わりについては理解しているが、会議に参加していないため、実際の話し合いの内容を把握しきれていない(議事録で確認している)。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
 R6年度4月の会議にて、『小規模多機能型居宅介護施設について』勉強会を行い、地域とのかかわりについて学習する(事業所のあり方についても考えていく機会とする)。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日(金)

7. 運営

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	1人	1人	8人	10人

前回の改善計画	事業所で開催している運営推進会議において、介護職員の参加を促す(管理者・ケアマネジャーに加えて、1~2名)。
前回の改善計画に対する取組み結果	コロナは5類の位置づけとなったが、事業所の感染症対策継続及び勤務体制の影響から、運営推進会議への出席は、今年度も管理者及びケアマネジャーで対応した。議事録は、全職員へ周知している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	1	3	3	5	12
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	9	1	1	12
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?		3	5	4	12
④	地域に必要なとされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?		3	5	4	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none">送迎や訪問時、自宅での様子を聞きながら家族の思いを受け止めて対応している。本人、家族の思いをチームで共有できている(自身が聞いたことはメモし、上長やケアマネジャーへ適宜伝えている)。運営推進会議で、利用状況や事業所の取り組み、事故報告を行い、出席者から意見を聞いている。地域交流はできるところから再開している(地域行事を事業所駐車場で開催する等)。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none">地域交流は、できるところから再開しているが、多くの方と交流がもてるまでには至っていない。運営推進会議を活用し、事業所の情報を共有、地域の困りごと等を聞く場としている。書面(議事録や申し送り等)での確認はしているが、直接意見や苦情を受けることが少ない(立場上、管理者、ケアマネジャーが受ける機会が多い)。“事業所のあり方”がについて、何が正解なのか、正解があるのかよく分からない。運営推進会議へ参加する家族がいつも同じである(年間で担当を決めていた)。他家族にも参加して欲しい。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
※R5年度と同様の計画とする 事業所で開催している運営推進会議において、介護職員の参加を促す(管理者・ケアマネジャーに加えて、1~2名)。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日(金)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	4人	人	9人

前回の改善計画
毎月テーマを決めて介護知識・技術の勉強会を行う(R5年3月に次年度の計画を立てる)。
前回の改善計画に対する取組み結果
部署会議は月1回実施した。毎回8~9割の職員が出席している。期初に計画を立て実施したが、緊急度や法人の指示等もあり内容は適宜変更している。虐待防止・身体拘束適正化委員会や感染症委員会、苦情解決委員会での取組みも、職員の意識底上げとなっている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	1	9	2		12
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	5	3	1	12
③	地域連絡会に参加していますか		3		8	11
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	11			12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・新人職員は、法人本部の研修に参加後、事業所へ配属されている。一年間はOJTを実施している。
・日々のケアの中で、リスクを予測しながら(意識しながら)声かけや介助をしている。
・職場外研修は、法人で必要とされる資格取得、自己啓発による受講等があった(実務者研修、介護福祉士対策講習会、介護支援専門員実務者研修、認知症基礎研修、認知症介護指導者研修、DCM研修、福祉避難所リーダー研修等)。
・新人職員から介護技術・知識等を聞かれた時は、一緒に行い、自身の技術や知識を振り返る機会とした。
・事故、ヒヤリハット発生時は、原因を分析、改善策を検討した上で、チームで共有・検討策を実施した。
・市の図書館からリハビリ体操の本を借り、レクリエーションで実施した。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・法人研修に家庭の都合で参加ができない時があったが、オンライン(Zoom)研修は参加できた。
・オンライン(Zoom)研修は、スマホの操作が苦手な研修に集中できなかった。
・資格取得やスキルアップのための研修等に参加できていない(知識・理解を深めたい点は挙げられるが、そのための行動ができていない)。
・リスクマネジメントは、「~だろう」という職員の思い込みや見守り・注意不足もあると感じる。職員の価値観や性格、スキル(経験含む)の違いもあるのではないかと。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
職場での研修(勉強会)で知識や技術を向上することは必須と考える。R6年度も毎月の部署会議で勉強会を開催する。各種委員会の取組みも取組みの成果や課題を明らかにしながら進める。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年3月1日（金）

9. 人権・プライバシー

メンバー 木内・福木・青木・上田・大江・安達・山内・奥田・松本・本郷・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	1人	7人	2人	人	10人

前回の改善計画
 次年度も同様にチームケアにおける倫理について学ぶ機会を設ける（部署会議内で勉強会を開催する）。
 前回の改善計画に対する取組み結果
 特に認知症のある利用者の対応について、コミュニケーションのあり方、ケアの方法を検討するなかで、倫理について学習している。利用者や家族の個人情報適切に扱うこと、プライバシー保護についても、定期的に会議の中で議題として取り扱っている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	身体拘束をしていない	5	6			11
②	虐待は行われていない	9	2			11
③	プライバシーが守られている	2	9			11
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1		1	4	6
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	8			11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 ・常に自分の言葉、行動が身体拘束でないか考え、業務にあたっている。
 ・虐待防止・身体拘束適正化委員会を中心に、不適切ケア（言葉遣い、認知症の方への対応）について話し合い、対応方法を検討し全員で取り組んでいる（毎月の部署会議で振り返りを実施）。
 ・同性介助を希望される利用者へ配慮ができている。プライバシーに配慮した対応をしている。
 ・利用者が出来る事は自身でもらえるよう心がけた。
 ・利用者の個人情報は話さないよう気をつけている。返事に迷った時は上長へ相談している。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 ・気をつけていても「ちょっと待って」等のスピーチロックが出るがあった（待つて欲しい理由は伝えている）。個人の資質に問うのではなく、職場の土壌づくりが大切と思う。
 ・夜間や早朝（夜勤者のみ）時、フロアにおられる利用者の見守りもあり、トイレに行かれた際に扉を閉めず、パーテーションを使用することがある（扉を締め切るとフロアの様子が分からない為）。
 ・不適切と思われるケアに遭遇した際、声かけができていない（同僚に対する遠慮や自身の判断に迷いがあり自信を持って言えない等）。感覚麻痺については、日々気をつける必要がある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
 虐待防止・身体拘束適正化委員会を中心に一年間継続した取り組みを実施する。毎月の部署会議で、取り組み状況を確認し、課題を検討し、次月の取り組みに繋げる。